

令和2年度第1回 福岡市国民健康保険運営協議会議事録

1 日 時 令和2年8月26日(水) 午後5時～午後6時45分

2 場 所 天神ビル 11階 10号会議室

3 出席者

委員(20人中17人)

被保険者代表(6人中5人)

大内田委員 大野委員 小田原委員 藤村委員 前田委員

保険医又は保険薬剤師代表(6人中6人)

平田委員 藤原委員 佐野委員 神田委員 永原委員 田中委員

公益代表(6人中5人)

伊藤委員 近藤委員 樗木委員 中山委員 浜崎委員

被用者保険等保険者代表(2人中1人)

上村委員

事務局

保険年金課長 保険医療課長 他

4 議事事項

(1) 本日の会議の議事録署名人の選出について

被保険者代表 大内田委員

保険医又は保険薬剤師代表 平田委員

公益代表 伊藤委員

の3名を選出

(2) 議題

福岡市国民健康保険の事業状況について

事務局より資料の説明後、質疑を行った。

●委員

24ページに医療費の適正化を効率的・効果的に推進とあるが、医療費の適正化について、内容を教えてほしい。

○事務局

レセプトにより被保険者資格の有無や、診療内容の妥当性等の点検、医療費を抑制するためジェネリック医薬品の普及啓発や、柔道整復療養費についても支給申請書による内容点検を行うなど、医療費の適正化を図っているところである。

●委員

私達が支払う国民健康保険料と医療費の支出の割合は、適正な水準はあるのか。

○事務局

国民健康保険制度は、医療費を、保険料と国や県からの公費で賄う制度になっている。医療費の適正化を推進することによって、不要な医療費が抑制されると被保険者の負担軽減にも繋がる。明確な基準はない。

●委員

適正な基準については難しいと思うが、国は医療機関に対し、如何なる災害が起ころうとも事業を継続できる計画を立てるよう言っているが、今日のコロナ禍において、マスクやアルコール、手袋等の医療資源の備蓄が全くなかった。ジェネリック医薬品についても、中国やその他諸外国で作られているものが多く、日本におけるジェネリック医薬品の製造が進んでいないと、今後、新たな災害が起こった際に、低価格の薬がなくなることが考えられる。

●委員

まず、はじめに、医師会の先生方をはじめ、コロナと最前線で闘っていただいている皆様方に敬意を表したい。コロナの影響により、保険料の負担、病院窓口での負担が高まり、国保の被保険者の暮らしが大変になっているのではないかとことや、診療控えによる症状悪化で、逆に医療費が嵩むようなことを懸念している。それらの動向について、認識があればお尋ねしたい。また、新型コロナウイルス感染症に係るPCR検査の財源はどうなっているのか、その仕組みを教えてほしい。陽性患者の治療についても同様に、その仕組みを教えてほしい。

○事務局

32ページ記載のとおり、新型コロナウイルス感染症の影響により収入が減少した世帯に対して、前年度所得が1千万円以下で、前年度から収入が30%以上減少した方などに対して、国民健康保険料の減免を適用する。34ページ表の一番右側の減免を適用した場合の減免額に記載のとおり、条件によっては高額な減免により被保険者の保険料負担の軽減を図っている。資格証明書を発行する際に事情をよく聴いており、受診控えがあるという状況は報告を受けていないが、しっかりと被保険者の方の事情等をお聞きしながら対応をしていきたい。

○事務局

診療控えの件だが、福岡市国保の医療費においては、今年度と、前年度の4、5月を比較してみると、一人当たり医療費で、4月で13.1%減、5月で14.2%減になっている。6月は2.6%減で、持ち直してきている状況ではあるが、しばらく傾向を見ていく必要があると考えている。コロナにおけるPCR検査等の医療費については、

基本的に保険が負担する分は国民健康保険で負担し、本人の自己負担については公費から出るため、本人負担はない。

コロナに罹った方の治療費も同様に保険から出ており、一般的な、自己負担3割の場合、残りの7割を保険者である国民健康保険が負担し、3割の個人負担の分について、公費で負担することになっている。

●委員

26ページの適正服薬推進事業とは、レセプトから得た情報を基に、重複して2カ所に行っている方を抽出し、本人に通知を出して薬局や医療機関への相談を促すということだと思うが、重複服薬者の情報を、薬局や医療機関に提供し、専門家による指導を行うのも一つの手だと考える。

また、特定健診について、国民健康保険の被保険者は個人事業主や高齢者が多く、企業で実施するような健診を受けられない方が多いため、健診率は低いと想定される。例えば、医療機関や薬局で指導をさせていただけるような配布資料があれば薬局で配るので、配布依頼をしてもらえないか。

○事務局

貴重なご提案をいただいたと思う。健診の促進になるようなチラシなどを薬局にもおいていただけるということか。

●委員

そうである。適正服薬推進事業で行っている個人への通知を、医療機関や薬局にも知らせて、そこから指導していくような形をとったほうが効率的ではないかと考える。

○事務局

ご提案はありがたいが、個人情報になるので、医療機関の受診情報を、他の先生にお伝えすることについては、検討の必要がある。特定健診の受診率向上のためにご協力いただくことは、今後、検討させていただきたい。

●委員

健診受診率が政令指定都市の中で福岡市が低いという大きな理由は、福岡市の医療資源の多さである。例えば、薬局を訪ねる人は、既にもう診療を受けており、受診時に加療されているので、特定健診を受診する必要がない。よかドッグ未受診者の医療情報収集事業が始まっているが、これで受診率は上がるのかも知れないが、根本的には生活習慣病の予防なので、受診率を上げることが目的ではない。学校や職場等による健診の機会から外れる世代の人達で病院に雇ってない人にどういうアプローチをしたらいいかを工夫しないと、受診率だけ上げて意味がないのではないかという気がする。

○事務局

確かに福岡市は、健診の受診率が全国的には低い状況だが、ここ数年の上昇率で見れば全国的にも上位の状況である。取り組みについては、効果的な個別勧奨の実施として、毎年受けている方、なかなか受けられない方など、対象に応じた通知方法の工夫や、今年度からは、集団健診のウェブ予約の開始より、いつでも予約できる状況にするなど、受診しやすい環境づくりに努めているところである。また、特定健診のデータは、生活習慣病の健康課題を分析し、生活習慣病の対策を練る大事な資料となるため、今後も受診率を向上させていく必要があると考えている。

●委員

9ページの、年齢に対する一人当たりの医療費の推移には歯科を含むと書いてあるが、10ページの主な疾病別医療費割合の中には歯科が出てきていない。「その他」に含まれているのか。

○事務局

疾病別医療費は、国保データベースシステム（KDB）のデータ分析により作成しているため、10ページ表のデータには、歯科のデータは反映されていないため含まれていない

●委員

収入と支出、歳入と歳出の話で、外枠の話が多いので、もっと中身に対する取組みの話をしてほしい。例えば、歯周病が糖尿病や生活習慣病の重症化に悪影響を及ぼすことは周知の事実であるが、歯周病の成人の罹患率は80%を超えている。まずは歯周病予防に取り組んでほしい。口腔内に不満を持つ方は人口の7割を占めるが、そのうち歯科を受診しているのは5割以下である。このコロナ下で、歯科医・歯科衛生士を介した感染例はゼロである。歯科医・歯科衛生士は、常日頃より徹底した感染予防をしているので、こういうときこそ歯科を受診して口腔内の健康を保つべきである。健康な人を増やすのが、一番の医療費適正化と考える。

●委員

薬に関して、例えば、新しい薬が出ると古い薬はもう飲まないし、医者や薬剤師の診断書どおりに薬局で薬をもらおうと古い薬はそのままになる。民間人には薬の原価計算はできないので、薬局で言われたとおりの金額を払うが、ジェネリックですむのであればジェネリックが良いと思う。自分自身についても、薬の在庫管理ができておらず、診療科目にも重複があるかもしれないので、今度病院や薬局で訊ねてみようと思う。

●委員

国保の財政そのものがコロナとの闘いの中で厳しくなることが考えられる。今後、福岡市は年明けの運協の議論の中で、来年度の保険料設定に向けて、被保険者の負担増とならない手立てをとってほしい。残念ながら今年度は保険料が引き上げられたが、次年度については、国に求めるものは求め、福岡市も独自に財源確保に努めるようお願いする。

●委員

特定健診の対象者というのは、老人クラブとかふれあいサロン等で活動しているので、「自分の体をまず知らないとコロナにも太刀打ちできませんよ」という働きかけをやっつけていこうということを、今日、別の研修会で話してきた。年配の方達に少しでも知っていただくように資料を配布し、ぜひ年に1回は健診を受けてくださいとお勧めしてまわろうかと思っている。

●委員

コロナによる自粛が続いているが、民生委員として歩いているときに、高齢者の方から「今まで病院に行ってリハビリをしていたが、コロナが怖いから病院に行けない。夫婦揃って家にいることが長くなり、だんだん認知症が進んできたような感じや、だんだん耳が遠くなり、お互いが大きな声で張り合い、なんかイライラするようになってきた。」という相談を受けた。いち早くコロナが収束するよう願っている。

●委員

コロナ禍で大変な状況にあるが、今後も、いろいろな感染症が流行し、健康保険料を払えなくなる方が出てくると思うので、今の時点で、今後の課題について地域で考えていけたら良いと思う。また、被保険者代表としては、本来この資料は事前に勉強しておかないとわからない。例えば、被保険者代表だけ事前に集まって、開示できる範囲の資料で話し合いをしてからこの会議に臨むとか、そういう形がとれば良いと思う。

●委員

最後に2点だけ話をしたい。まず1点目。13ページだが、一般会計の繰入金が増えており、繰入金は市民の方の税金から繰り入れているわけなので、見直しできないのか。一人当たりの一般会計繰入金額が、福岡市は政令市で一番高いような状況になっている。国保の構造上の重要な問題は重々理解しているが、協会けんぽの16.47%に対し、国保は34%ほど国庫補助が入っている。国庫補助を受け、さらに市民の税金を国保に投入しているという現状を踏まえ、赤字の改善に努める方針を示してほしい。もう1点は、コロナ下での健診の保健指導に関して、どのような方向性で考えているかということである。健康診断の実施にあたり、協会けんぽにおいて影響が出始めたのは4、5月だった。健診をやめるよう指導された5月は受診率が下がったが、6、7月は盛り返してきている。毎年受診されている方は今年も受診を希望される方が多いので、三密を避けて実施し、受診者が安心できるよう努めた。その分キャパシティが落ちたりはしたが、何とか予防に力を入れ、受診率を上げようとしている。28ページの特定健康保健指導に係る遠隔面談モデル事業の実施等検討について、協会けんぽでもリモート面談を積極的に進めているところである。コロナ禍において予防は大事であり、福岡市の今後の方向性について伺いたい。

●委員

協会けんぽにしても健康保険組合にしても共済組合にしても、健康維持のため、誰かが健診の受診勧奨をするが、国保の場合は誰がそれをやるのか、そういう関係を作っていくのかという事が難しいなど日頃から思っている。これからおそらく「地域」という言葉がいろいろなところでキーワードになってくると思うので、国保に加入している皆さんが、その他の分野の方と協力して、地域の繋がりにより健康診断の受診や健康づくりができる環境を作ることが、結局は国保の健康維持につながっていくのだろうということを感じた。

●委員

議会としては、一人当たり繰入金を今後どうしていくかという話になるが、三師会の先生方の単純な受診率の増減ではないという意見があり、ジェネリック医薬品の開発促進や特定健診の推進が求められているのも事実である。全意見を一度で取り入れることは難しい状況で、最終的には、一般会計繰入金から拠出する限度額、繰入金を減らした場合の財源をどうするか、ここが重要だと考える。

●委員

データヘルス計画の実行にあたり、いち早くビッグデータを構築し、それを活用して、理念性に基づく健康な人を増やしていき、国保財政の安定を目指していくということ、一歩ずつやっていければと考える。ゾルゲンスマやキムリア等の高価な薬が出てきているが、日本の場合、薬価は公定価格であり、医療費を上手く削減していくためには、病

院に罹らない健康な人を作り上げていくということが、重要だと申し上げる。

○事務局

皆様からいろいろとご意見いただき感謝申し上げます。

本日は、お金の話と医療費適正化について皆様からご意見ご質問をいただいた。

福岡市の医療費適正化の取組みだが、まずは医療費を下げるというよりも医療費の伸びをいかに抑えるかというところを視点に取り組んでいる。今後は超高齢社会になってくるが、年齢が高くなればなるほど医療費は高くなる。そのような年齢が高い、医療費がかかる方が、今後はまた更に増え、もしかしたら国保の半分は高齢者になるかもしれない。そのような状況になったときに、国民健康保険事業をいかに維持していくかという、将来的なことも見据えながら医療費適正化に取り組んでいる。ジェネリック医薬品の普及促進や、同じ症状で複数の医療機関を受診されている方への声掛けによる受診状況の改善に係る取組みがまず1点、また、医療機関に罹っていない方が必ずしも健康というわけではないので、自分の身体の状態を知ったうえで、早い段階で治療をする、そして、健康な状態で元気な高齢者になっていただくということが2点目である。さらに病気になっていらっしゃる方については、病気を重症化させないということである。例えば、糖尿病の方が重症化して人口透析になると、一人当たり年間500万円かかると言われている。自分の生活も非常に不便になってくるので、1年でも2年でもできるだけ重症化しないことを3点目として考えている。福岡市国民健康保険事業は、これらをセットとして医療費の適正化の取組みを皆様の方に打ち出しているし、政策的にも重点事項として進めさせているところである。今後とも本日皆様から頂いた意見を参考に、今後の事業の展開に努めていきたいと思っている。